



第88期
営業報告書

株式会社ノダ

証券コード：7879



代表取締役社長
野田 励

ノダグループは、 木を活用した心地よい空間づくりによって 社会に貢献しながら、着実な成長を目指します。

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、ここに当社グループの第88期(2024年12月～2025年11月)の営業の概況等につきまして、ご報告申し上げます。 2026年2月

営業の概況

住宅業界においては、建築費高騰や職人不足などの影響から需要の低迷が続きました。新設住宅着工戸数は、期初から低水準で推移するなか2025年4月施行の法改正(建築基準法、建築物省エネ法)に伴う建築確認審査の遅れにより同月以降は大幅減となり、当期の総戸数は前期比6.6%減、比較的堅調に推移していた貸家も4.6%減(木造の貸家は0.6%増)となりました。また、合板については本格的な荷動きの回復には至らなかったものの、前期まで下げ局面が続いていた国産針葉樹合板の販売価格は、期初を底に上半期は緩やかながら値戻しが進みました。

このような厳しい事業環境において当社グループは、内装建材シリーズ「カナエル」や構造用面材「HBW」などの拡販に注力し、新規顧客の獲得や既存顧客との取引深耕を図りました。また、合板やMDF(中質繊維板)など素材については、引き続き需要動向を注視しながら仕入・生産を行い、コストに見合った適正な販売価格の設定に努めました。さらに、原材料や製造工程の見直し、配送効率の向上、固定費のコントロールなどコスト上昇への対応や生産性向上の徹底に取り組みました。しかしながら、長引く住宅需要の低迷により販売量が伸び悩むなか、原材料・副資材価格、物流費、電力料などの上昇もしくは高止まりに加え、合板の平均販売価格が前期を大幅に下回ったことから、収益性は著しく低下いたしました。

この結果、当連結会計年度における連結業績は、売上高64,686百万円(前期比3.5%減)、営業損失47百万円(前期は営業利益444百万円)、経常損失29百万円(前期は経常利益675百万円)、親会社株主に帰属する当期純損失829百万円(前期は親会社株主に帰属する当期純損失4,612百万円)となりました。

木質建材事業

木質建材については、省施工、高意匠、バリアフリーなどお客様の多様なニーズにお応えすべく、内装建材シリーズ「カナエル」を主軸とした販売に引き続き注力いたしました。また、木造集合住宅等における生活音対策として、軽量・重量いずれの床衝撃音も低減する木造遮音・防火工法「シャーオン」の提案を強化し、材工(施工付き販売)の拡大や防音フロアの拡販も図りました。MDFについては、2025年4月施行の法改正による建築物の省エネ化や構造計算に関する規制強化を踏まえ、各種セミナーの開催等により耐震性能や透湿性能に優れた「HBW」(構造用ハイベストウッド)の提案に引き続き注力いたしました。さらに、当連結会計年度より連結範囲に含めた(株)アリモト工業との営業・施工分野でのさらなる連携強化を図りました。

これらの取り組みによって、貸家市場やリフォーム・リノベーション市場の開拓については一定の成果を上げることができましたが、新築戸建向けの販売量の落ち込みをカバーしきれず前期比で減収となりました。利益については、固定費のコントロールや生産性向上の徹底に加え、前

期の減損損失計上に伴い当期の減価償却負担が軽減されたことなどから、前期比で増益となりました。

この結果、木質建材事業の売上高は39,804百万円(前期比1.3%減)、セグメント利益は808百万円(前期はセグメント損失10百万円)となりました。

合板事業

国内需要が依然として弱含みで推移するなか、国産針葉樹合板・輸入南洋材合板のいずれも販売量の本格的な回復には至らず、当期の平均販売価格は前期を下回りました。国産針葉樹合板については、前期まで約2年にわたり販売価格の下落が続いていましたが、生産調整を継続して適正な在庫水準の維持と販売価格の設定に努めた結果、当期の期初には販売価格が底を打ち、緩やかな上昇傾向に転じました。しかし、実需不足により販売競争が激化するなか、販売価格は下半期ほぼ横ばいとなり、期末にかけては若干の値下がりとなりました。また、輸入南洋材合板については、需要の低迷により仕入コスト高を販売価格に転嫁できず、低採算の厳しい状況が続きました。

この結果、合板事業の売上高は24,881百万円(前期比6.8%減)、セグメント利益は898百万円(同59.3%減)となりました。

配当について

当社の利益配分に関する基本方針は、業績の状況及び配当と内部留保のバランスに配慮しながら、配当の安定性を確保するとともに、株主の皆様への利益還元を行うことです。また、内部留保金につきましては、財務基盤の充実強化並びに今後の事業展開に役立てていく考えです。なお、当期(2025年11月期)の期末配当金につきましては、配当の基本方針並びに当期の業績等を総合的に勘案し、1株につき15円(中間配当金を含め当期の年間配当金は1株につき33円、前期に比べ9円50銭の減配)とさせていただきます。

対処すべき課題

住宅業界においては、国内人口や世帯数の減少に加え、住宅ローン金利の上昇や建築費の高騰により、新設住宅着工戸数は当面、弱含みで推移すると予想されます。一方で、住み替え需要は底堅いものがあり、木造集合住宅の着工は増加傾向にあります。また、既存住宅の性能向上ニーズや住宅ストックの有効活用への関心の高まりか

ら、リフォーム・リノベーション市場は堅調に推移するものと思われます。

当社グループはこのような事業環境のもと、新規顧客の獲得や既存顧客との取引深耕を図るため、付加価値提案の強化によりブランドイメージの向上に取り組み、新築戸建市場における競争力強化や貸家・リフォーム市場のさらなる開拓を推進してまいります。そのための取り組みとして、「シャーオン」や「HBW」の提案強化に加え、深刻化する職人不足の解決に貢献する省施工製品の拡販、施工子会社(株)ナフィックスや各地の施工業者との連携による材工販売の拡大、多様化するニーズに応えるデザイン性・機能性を備えた新製品の投入などにより、安定的な収益の確保に努めます。また、木製外構構造物の営業・施工について(株)アリモト工業、(株)ナフィックスとの連携をさらに深めた、公共・商業施設など非住宅市場の開拓を一層推進いたします。

合板やMDFなど素材については、需要動向を注視しながら機動的な生産調整と在庫管理を行い、コストに見合った適正な販売価格の設定に努めるとともに、中・大規模建築物向け用途開発にも引き続き取り組みます。また、原材料や製造工程の見直し、配送効率の向上、固定費のコントロールなどを通じて生産性向上やコスト削減を徹底し、収益性の改善を図ります。さらに、DX推進による業務効率化、人材育成、職場環境改善、災害対策や安全管理の徹底など経営基盤の強化に努めます。

なお、これらと並行し、サステナビリティへの取り組みの一環として、植林により再生可能な木材資源である国産材を使用した国産針葉樹合板や、再生資源・未利用資源である廃木材のチップを使用したMDFを積極的に活用するとともに、健全な森林を整備するため合板やMDFの原材料として間伐材を積極的に受け入れております。また、新たな付加価値を創出するアップサイクルの取り組みとして、合板の製造過程で発生する芯材(丸太の剥き芯)から精油を抽出し、「ヒノキエッセンシャルオイル」として製造・販売しております。これらの取り組みを通じて、引き続きCO₂の削減、持続可能な森林循環の実現、地域林業の活性化に貢献してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

ビジョン2030

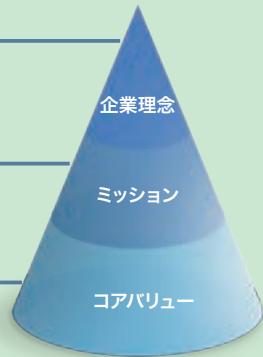
木の心地よさを住まいから様々な空間へ

ノダグループは、持続的に成長し社会に貢献する企業であり続けるため、以下の通り経営理念を定めます。

【企業理念】
主体的に価値創造に挑戦することにより個の成長を促し、さらなる社会貢献を実現できる企業を目指します

【ミッション】 社会に果たすべき使命・木の良さを活かして快適な空間創造に寄与します
・木をムダなく使い、持続可能な森林循環に貢献します

【コアバリュー】 理念実現のための共通の価値観
共生・誠実・しんか(深化・進化・伸化・新化)



ビジョン2030実現のための経営戦略



理念実現のための基本姿勢



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

ノダは、持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

～木をムダなく使い、持続可能な森林循環に貢献～

私たちは、自らの事業を通じて、SDGsの17ある開発目標のうち以下の目標を達成するために、グループをあげて取り組みます。

11 住み続けられるまちづくりを

目標11 「住み続けられるまちづくりを」
誰もが幸せに住み続けられるまちをつくるために、ノダは「サステナブルな木造建築の実現」「エコロジー部材の提供」を通じて安心・安全に暮らせる空間づくりに努めてまいります。

12 つくる責任 つかう責任

目標12 「つくる責任つかう責任」
持続可能な生産と消費を確保するために、ノダは「木質資源の製品・用途開発」「循環型の木質資源の活用」「廃資源もムダなく使いこなす」に努めてまいります。

13 気候変動に具体的な対策を

目標13 「気候変動に具体的な対策を」
気候変動の原因となる温室効果ガス(主に二酸化炭素)を削減するために、ノダは生産工場におけるエネルギー効率向上はもとより、太陽光発電などクリーンエネルギーの利用や再生可能エネルギーの利用などにより、地球温暖化防止に努めてまいります。

15 陸の豊かさも守ろう

目標15 「陸の豊かさも守ろう」
森林循環に貢献するために、原木生産者の安定販売先としての受け皿になるとともに、自社保有林での伐採後の植林を進め、木質資源の価値創造に努めてまいります。

1. MDFを製造

再生資源・未利用資源である廃木材のチップを繊維化・加熱・圧縮してエコ素材のMDFを製造しています。優れた構造強度や高い耐久性を持っている高耐水MDF(構造用ハイベストウッド)により、より快適な住まいを実現できます。

地震に強い
壁倍率
4.0倍



2. 国産材を使用

日本で育てられた木を積極的に使用しています。循環型資源形成を目指し、環境保全、CO₂の削減、資源保護に貢献しています。



3. 間伐材を使用

間伐によって木はまっすぐ充分に成長し、森林に水源かん養機能の向上や土砂崩れの予防など様々な効果をもたらされます。国産針葉樹合板やMDFの原料として間伐材を積極的に利用することで、間伐材の安定した受け入れ先となり、健全な森林の整備の促進に貢献しています。



適度な光が差し込み木々の健全な生育環境が保たれます

4. 安全に暮らせるまちづくり

合板の製造過程で発生する芯材(丸太の剥き芯)を、防潮堤の資材として海岸防災林の再生に活用いただくことで、自然災害のリスクを低減させ、より安全に暮らせるまちづくりに貢献しています。



防潮堤
芯材使用状況

～HBW(構造用ハイベストウッド)～

一生を預ける家を本気で守りたい、その想いで作り上げた耐力面材です。

3つの特徴

① 繰り返し地震に強い



② 木質系面材No.1の透湿性能



当社 HP (HBW ページ)



③ 耐震性能シミュレーション wallstatにも対応



当社 HP (耐震シミュレーション)



～耐震性能見える化協会様とセミナーを実施～

高い耐震性能を持つHBWの認知度をさらに高めるため、全国各地でコラボセミナーを開催。今後も地震に強い安心・安全な住まいづくりに貢献します。



Canaeru

カ・ナ・エ・ル

驚きと喜びを、すべての空間に。

どんな場所でも心がふっと軽くなるような心地よさを。デザインと機能により日常に寄り添う「驚き」と「喜び」、使いやすさ、心地よさ、そのすべてが、「あ、いいな」と感じる瞬間へ。そんな暮らしの未来をかなえる内装建材シリーズです。



C-Design

快適な心地よさをかなえるデザイン



R-Design

木材のぬくもりが溢れるデザイン



T-Design

個性的な空間を演出するデザイン

～シャーオン（木造遮音・防火工法）～

旭化成建材(株)、(株)オーシカ、当社の三社共同開発新工法で気になる「生活音」を大幅カット。重量・軽量床衝撃音などの生活音・ペットの動き回る音に対応し、床からの音が気になりにくい快適な住空間をご提供します。

- 高い遮音性能による快適な居住空間の提供
- 防火性能による安全性の向上
- 施工の容易さと工期短縮によるコスト削減



ノダ対応フロア



カナエルC防音45



クオルテ防音45

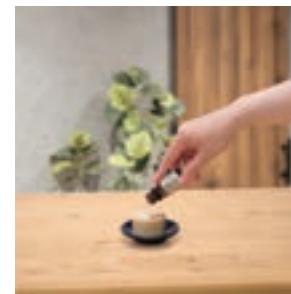
～ヒノキエッセンシャルオイル～

当社富士川工場に精油抽出プラントを導入し、合板製造時に発生する「剥き芯チップ」から抽出した「ヒノキエッセンシャルオイル」の生産・販売を開始しました。富士山周辺の富士ヒノキを原料にしていることに加え、エッセンシャルオイルの蒸留に富士の地下水を使用し、木材・水・土地全てが「富士」につながる「富士発のエッセンシャルオイル」になります。

なお、オイルを抽出した後のチップは当社清水工場にてMDF原料として使用しており、剥き芯のアップサイクル、丸太の付加価値化につながる取り組みになります。



エッセンシャルオイル



ウッドディフューザー



使用イメージ



当社HP
(エッセンシャルオイル)

富士市との取り組み



TOKYO TORCH 夏イベント 富士市ブースにて出展販売
(2025年8月29日・30日開催)



富士市のふるさと納税返礼品として出品予定

～静岡大学農学部と産学連携～

当社と静岡大学農学部は「Nature Positive (自然再興)」をテーマとする農学教育の推進を目的とする産学協定を締結し、2025年度より「未来をつくる学び」に取り組んでおります。
本取り組みは、農学分野の学びの中心にある、環境科学・生物資源・地域創生を担う人材育成を目的としており、産学連携による実践的な学びを通じて持続可能な社会の構築に貢献することを目指します。

取り組み内容

- 静岡大学 農学総合棟南側 中庭整備と連動した実践学習
自然素材の可能性と空間設計における環境配慮を学ぶ貴重な実践機会となります。
- 産学が共創する多様な学習機会の提供
素材の生産から利用、循環に至るプロセスを実践的に学び、自然と共生する社会のしくみを多角的に理解し、「未来をつくる学び」を身に着けることができます。



静岡大学 中庭整備

学習機会 (具体例)

講演会
(静岡大学農学部にて開催)



森林研修会
(静岡県森林組合連合会等にて開催)



工場見学会
(当社清水・富士川工場にて開催)



当社HP
お知らせ



協定締結

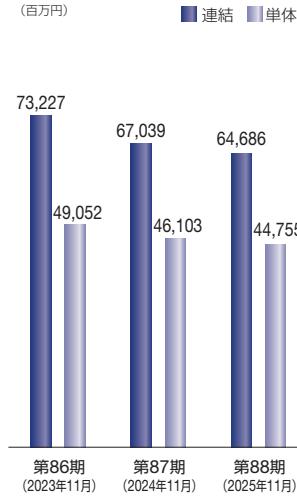


講演会

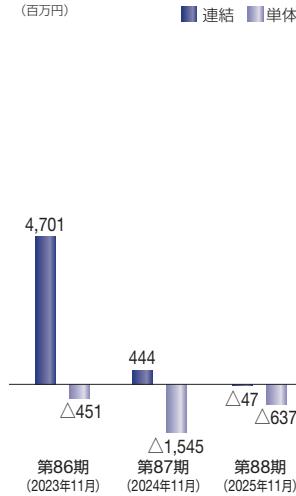


決算ハイライト

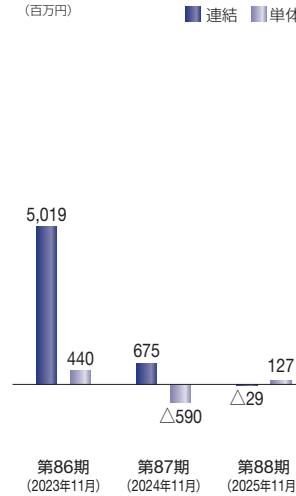
売上高



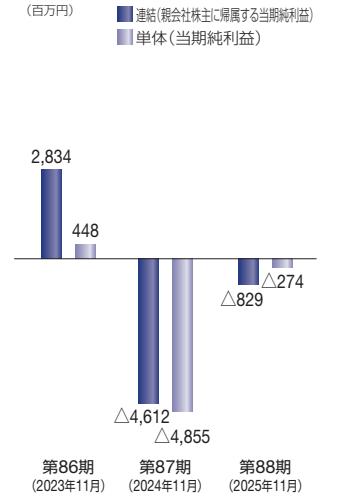
営業利益



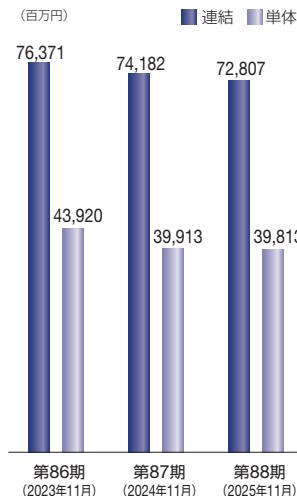
経常利益



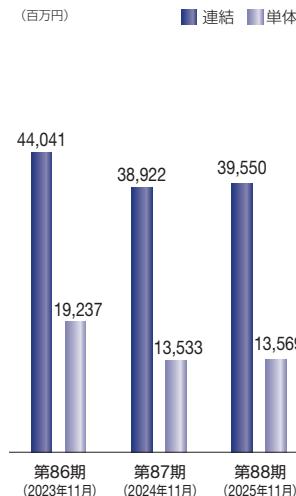
当期純利益



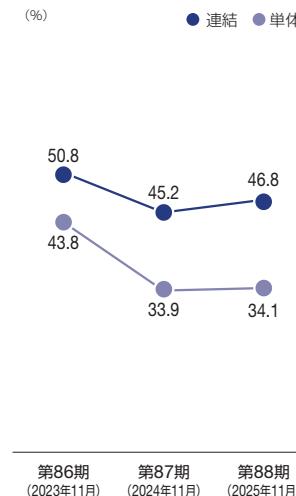
総資産



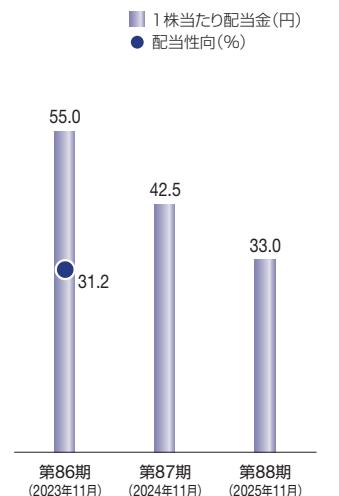
純資産



自己資本比率



年間配当金



会社の概況

会社名 株式会社ノダ
本社 東京都台東区浅草橋5丁目13番6号
設立 1938年1月8日
資本金 21億4,100万円
従業員数 1,031名(連結1,798名)

営業拠点

北海道(札幌市)、旭川、帯広、青森、北東北(盛岡市)、東北(仙台市)、郡山、東京(台東区)、千葉、柏、埼玉(さいたま市)、高崎、宇都宮、茨城(水戸市)、横浜、厚木、西東京(八王子市)、甲府、新潟、長野、静岡、沼津、浜松、名古屋、三重(鈴鹿市)、三河(岡崎市)、岐阜、北陸(金沢市)、大阪、京奈(京都市)、兵庫(神戸市)、中四国(広島市)、北九州、大分、福岡、長崎(諫早市)、熊本、宮崎、南九州(鹿児島市)、沖縄(那覇市)、他

ショールーム

東京ショールーム : 東京都台東区
仙台ショールーム : 宮城県仙台市
横浜ショールーム : 神奈川県横浜市
清水ショールーム : 静岡県静岡市
名古屋ショールーム : 愛知県名古屋市
大阪ショールーム : 大阪府大阪市
福岡ショールーム : 福岡県福岡市

工場

清水工場 : 静岡県静岡市
富士川工場 : 静岡県富士市

連結子会社

石巻合板工業株式会社 : 宮城県石巻市
アドン株式会社 : 静岡県静岡市
株式会社ナフィックス : 東京都台東区
アイピーエムサービス株式会社 : 宮城県石巻市
株式会社アリモト工業 : 鹿児島県鹿屋市
PT. SURA INDAH WOOD INDUSTRIES (スラインダー社) : インドネシア

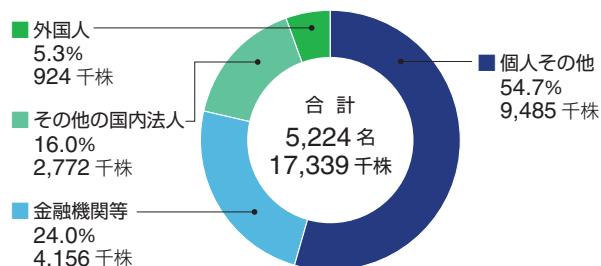
持分法適用関連会社

SANYAN WOOD INDUSTRIES SDN. BHD.(サンヤン社) : マレーシア

株式の状況

発行可能株式総数 68,303千株
発行済株式の総数 17,339千株(自己株式1,683千株を含む)
株主数 5,224名

所有者別株式分布状況



2026年2月26日開催の第88回定時株主総会におきまして、下記のとおり報告および決議されましたのでご通知申し上げます。

報告事項

- 第88期(自 2024年12月1日 至 2025年11月30日) 事業報告、連結計算書類並びに会計監査人及び監査役会の連結計算書類監査結果報告の件
 - 第88期(自 2024年12月1日 至 2025年11月30日) 計算書類報告の件
- 上記の各内容を報告いたしました。

決議事項

- 第1号議案 剰余金の処分の件
第2号議案 取締役11名選任の件
- 上記すべて原案どおり承認可決されました。

なお、本株主総会終了後開催された取締役会において、代表取締役及び役付取締役が選定され、また、本株主総会終了後開催された監査役会において、常勤監査役が選定され、それぞれ就任いたしました。

この結果、当社の役員は下記のとおりとなりました。

役員一覧(2026年2月26日現在)

代表取締役社長 野田 励 取締役 渡邊 慎也
代表取締役専務 野田 四郎 社外取締役 塩坂 健
常務取締役 高津原健太郎 社外取締役 高井 章光
取締役 宮田 佳明 常勤監査役 長谷川 倫源
取締役 良知 正啓 社外監査役 三浦 悟
取締役 新美 泰 監査役 上原 敏彦
取締役 天岸 知樹 社外監査役 春山 直輝
取締役 服部 裕仁

配当金のお支払いについて

第88期期末配当金は、口座振込をご指定いただいている株主様には「配当金計算書」及び「お振込先について」を、株式数比例配分方式をご指定いただいている株主様には「配当金計算書」及び「配当金のお受け取り方法について」を同封いたしましたので、お早めにご確認ください。

また、上記以外の株主様は、同封の「期末配当金領収証」により、2026年2月27日から同年3月31日までの間に、お近くの郵便局またはゆうちょ銀行でお受け取り下さい。

〔 次回以降の配当金について現金でのお受け取りにかえて銀行またはゆうちょ銀行(郵便局)の預貯金口座へのお振込をご希望の方は、お取引の証券会社等あてにお問い合わせください。 〕

株 主 メ モ

事業年度 12月1日から翌年11月30日まで
定時株主総会 2月
基準日 定時株主総会 11月30日
期末配当金 11月30日
中間配当金 5月31日
そのほか必要ある場合は、
あらかじめ公告して定めます。

単元株式数 100株
株主名簿管理人 みずほ信託銀行株式会社
事務取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目3番3号
公告掲載新聞 日本経済新聞

《株式に関する手続きのお申し出先について》

●証券会社等へ当社株式をお預けいただいている場合

当社株式をお預けいただいている各証券会社等にお申し出下さい。なお、未払配当金の支払い、支払明細発行については、下記「みずほ信託銀行株式会社」の郵便物送付先、電話お問合せ先、お取扱店をご利用下さい。

●証券会社等へ当社株式をお預けいただいていない場合(特別口座)

みずほ信託銀行株式会社 証券代行部

(郵便物送付先/電話お問合せ先)

〒168-8507東京都杉並区和泉2丁目8番4号

電話 0120-288-324(フリーダイヤル)

(お取扱店) みずほ信託銀行株式会社 本店および全国各支店(※)

(※)トラストラウンジではお取り扱いできません。

なお、電子化前に名義書換を失念してお手元に他人名義の株券がある場合は、上記の電話お問合せ先までお問合せ下さい。

ホームページ、公式SNSのご案内

当社のホームページにてシミュレーションツールやWebカタログ、新製品・おすすめ製品情報がご覧いただけます。また、当社の公式Facebook・Instagramでも様々な情報を発信しておりますので、ぜひご覧下さい。

<https://www.noda-co.jp>



ノダ ホームページ



公式Facebook



@NODA_corporation

公式Instagram



@noda_corporation

Facebook : <https://www.facebook.com/NODAcorporation/>
Instagram : https://www.instagram.com/noda_corporation/

環境保全のため、FSC®認証紙と環境に優しい植物油インキを使用して印刷しています。